

令和元年度第1回西予市総合教育会議 会議録

1 開催した日及び場所

令和元年10月23日(水) 午後3時00分から午後4時30分まで
西予市教育保健センター 4階 大ホール

2 出席した構成員

西予市長	管 家 一 夫
西予市教育委員会	
教育長	松 川 伸 二
教育委員	樋 口 美 和
教育委員	平 岡 長 治
教育委員	古 谷 和 彦
教育委員	酒 井 郁 子

3 会議に出席した職員

(教育委員会事務局)

教育部長	宇都宮 裕
教育総務課長	垣 内 俊 樹
学校教育課長	富 永 達 也
生涯学習課長	竹 内 克 之
スポーツ・文化課長	谷 口 佳 代
明浜教育課長	濱 田 喜 基
野村教育課長	岡 上 昌 造
城川教育課長	久保田 修
三瓶教育課長	滝 野 広 明
教育総務課長補佐	麓 寿 春
教育総務課主査	河 野 旭
教育総務課主査	稲 口 智 博

(市長部局)

総務課長	山 住 哲 司
まちづくり推進課長	一 井 健 二
総務課長補佐	宮 中 英 希
まちづくり推進課長補佐	山 下 みさと
まちづくり推進課係長	往 田 剛

4 傍聴者

なし

5 協議事項

- (1) 小規模多機能自治活動拠点整備事業について
- (2) 地震・津波発生時のスクールバス運行路の避難路確保について
- (3) その他

6 協議の内容

垣内課長	<p>定刻となりましたので、ただいまから令和元年度第1回西予市総合教育会議を開会いたします。</p>
管家市長	<p>初めに管家市長からあいさつをいただきます。</p> <p>日頃は各教育委員の皆様におかれましては、西予市の教育行政全般にわたり、ご協議を重ねていただき、現場においてはご指導賜っておりますこと、この場を借りまして御礼申し上げます。</p> <p>また、大変ご多忙の中、令和元年度第1回西予市総合教育会議へ万障お繰り合わせの上、ご出席いただきまして重ねて御礼を申し上げます。</p> <p>本日の会議につきましては、「小規模多機能自治活動拠点整備事業について」と、「地震・津波発生時のスクールバス運行路の避難路確保について」の議題がございます。西予の教育の源となる会議でございますので、皆様の活発なご意見をいただきますようお願い申し上げます。</p>
垣内課長 松川教育長	<p>続きまして、松川教育長があいさつを申し上げます。</p> <p>管家市長におかれましては、お忙しい日程を割いていただいた本日の総合教育会議の開催、誠にありがとうございます。日頃より、教育行政の推進に深いご理解とご支援をいただいておりますことに対しましても、厚く御礼申し上げます。</p> <p>また、昨年7月の豪雨災害の復旧・復興に邁進され、着実に復興への道筋が確立されつつありますことに敬意を表しますとともに、教育施設の復旧・復興につきましても、ご尽力をいただいておりますこと、深く感謝を申し上げます。おかげをもちまして、乙亥会館、せいよ東学校給食センターといった規模の大きな施設につきましても、復旧に向け確実に前進しているところでございます。</p>

垣内課長	<p>私自身、本年6月10日に教育長に就任以来、5か月が過ぎようとしております。改めて責任の重さを感じ、頑張らなければと自分に言い聞かせている日々であります。今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。</p> <p>さて、本日は管家市長から1件、教育委員会から1件の計2件の協議事項があげられ、意見交換をしていただくことになっておりますが、忌憚のないご意見を交わしていただくことによりまして、今後の教育行政に活かして参りたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。</p> <p>それでは、協議事項に移らせていただきます。</p> <p>ここからの進行は、西予市総合教育会議運営要綱第4条第1項により、管家市長にお願いいたします。</p>
管家市長	<p>本会議を主催する立場から進行を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。</p> <p>では、小規模多機能自治活動拠点整備事業について、事務局の説明をお願いします。</p>
一井課長	<p>説明の動画を用意しておりますが、動画に入ります前に公民館の自治センター化の背景について説明をさせていただきます。</p> <p>まずは、小規模多機能自治活動拠点整備事業ですが、小規模多機能自治とは、概ね旧小学校区などの範囲、西予市では27の地域づくり組織単位において、地区内の住民や多様な主体、例えば自治会、企業、各種団体、学校、金融、公的機関などによって構成された地域の共同体が、地域の実情に応じて多様な課題解決や、住民の福祉などを増進するための、課題解決型の住民自治の取り組みのことを申します。</p> <p>このような考え方がスタートしたきっかけでございますが、1999年に当時の群馬県の小寺弘之知事が小さな自治として提唱した概念であり、県や市町村の自治を大きな自治、地域コミュニティの自治や住民自治を小さな自治としております。地方における人口減少が進んでいる中、市町村合併により大きくなった自治体は、物理的・心理的に身近な地域課題の解決が難しくなっております。このような現状を解消するのが小さな自治、すなわち住民自治の確立であり、現在まで人口減少の著しい地方自治体において、小規模多機能自治の推進が図られているところでございます。</p>

さて、当市の現状でございますが、まちづくり政策の一番の指標となる人口は、年間約 600 人が減少しているのが実態でございます。このような急激な人口減少や高齢化により過疎化が進み、周辺部では集落活動の維持や暮らしの利便に関する不安が大きくなっております。一方、中心エリアでは、人と人との繋がりやコミュニティが希薄化いたしまして、自治活動が脆弱化している課題もございます。広大な西予市におきましては、一律的な行政サービスだけではきめ細やかなサービスが行き届かない時代となっております。このような人口減少に対応するために、市民と行政がともに手を取り合って、持続可能な地域基盤と行政サービスを自分たちの手で創り上げていく手法が必要となります。

特に西予市は多様性が特徴でありますので、一律的な行政サービスを行うだけでなく、旧小学校区のコミュニティが主体性を持って、地域特性を活かしていくまちづくりを推進しております。その地域力を高めるためには、自治会や各種団体、企業、学校、行政、地域外の応援者を含めた地域の総合力で、この人口減少に対応していくほかないと考えております。

西予市では、地域づくり活動に必要な財源といたしまして、平成 23 年度から地域づくり交付金を準備いたしまして、住民主体の活動の推進をしております。この取り組みによりまして、全国的にも注目される活動が生まれておりまして、市内の各地に地域活動の勢いが芽生え始めている実感もございます。このことは、地域づくり交付金が、市民の主体性・自主性をもたらした効果でございまして、地域に誇りと愛着を持って、自分達の地域を良くしたいとの思いが、地域活性化に繋がっているものでございます。

このようなことから、生涯学習をはじめ、体育・レクリエーションを含む各種の教育活動を推進している現在の公民館を、さらに幅広く自分達が活動したい事業を行政とともに推進していける自治センターにすることが、これからのまちづくりに必要であると考えました。このようなことから公民館を自治センターへ移行する取り組みを今年度から進めていくものでございます。

人口減少や財政状況が今後ますます厳しくなる中、本市と

	<p>いたしましては、地方の小規模自治体としての生き残りをかけた大きな改革でありますので、慎重かつ丁寧に進めて参りたいと思います。</p> <p>なお、この後、動画をご覧いただきますが、あくまでも現時点での行政のたたき台でございますので、その点ご了承ただけたらと思います。</p> <p>それでは、ただいまから説明動画をご覧いただけたらと思います。よろしくお願いいたします。</p> <p style="text-align: center;">(動画視聴)</p>
<p>管家市長</p>	<p>ただいま小規模多機能自治活動拠点整備事業について、事務局から説明し、動画をご覧いただきましたが、このことについてご意見をお伺いしたいと思います。</p>
<p>古谷委員</p>	<p>今、西予市の人口減少や、高齢化の状況、そこから派生してくる色々な課題を見せていただきました。それを解消する一つの方法として小規模多機能自治活動拠点整備事業で公民館を地域づくり活動センターにするという話でしたが、素晴らしいと感じました。</p> <p>地域づくり活動センターに4人の職員が配置されるということでありましたが、目指すのは小さな村役場ということで、色々なことをやっていかなければならない4人の職員の責任が大きいのではないかと思います。</p> <p>また、場合によっては、地域づくり活動センターの下に、様々な委員会を設置していかなければいけないと思います。そのように考えた時に、人材の確保がとても大事になってくると思います。</p> <p>学校と公民館は、協力して様々な行事をすることがあります。公民館には、学校と地域を繋げる一つの大きなパイプ役としての役割があり、ぜひ、そういった機能は残していただきたいと思います。</p>
<p>管家市長</p>	<p>人材の確保については、責任が重い部分もある訳ですが、配置する一般行政職員は、ある程度の行政経験を有した職員の配置を予定しています。また、地域づくりの事務局としての地域任用職員については、ある程度の人材を確保するために、地域づくり交付金の中に人件費相当分を加える考えであります。そして、地域づくり活動センターの運営に関わる委員会については、例えばPTAや学校、婦人会などの組織も</p>

<p>一井課長</p>	<p>構成メンバーとして入っていただくように考えおります。</p> <p>公民館という名称がなくなっても、地域の人たちが集まって話し合い、地域の課題を解決する、地域を元気にする組織になると思っています。</p> <p>そのようなことで、学校との関係も続けていけると思いますが、事務局から、補足説明がありましたらお願いします。</p> <p>地域づくり活動センターの人材確保について、地域任用職員は、予算の範囲内ではありますが、地域によって複数人数の採用も想定しています。</p> <p>また、地域住民と地域づくり活動センターとの協力関係については、地域の各種団体等をはじめ、現在の地域づくり組織において、分野ごとに部会を作られている組織もあり、部会制により専門的な活動を一丸となつて行えるのではないかと考えています。</p> <p>学校との連携については、これまでと同様に必要と考えております。市長部局に移る社会教育を含め、今後も学校教育との連携は重要であり、継続されると思っています。また、学校側としても、地域づくり組織の一員として加わる形で、よりネットワークを深めていただければと思います。</p>
<p>平岡委員</p>	<p>私も野村の小さな集落に住んでいますが、年々高齢化し、小学生が集落に1人もいない現実があります。それぞれが年齢を重ね、担い手がだんだんいなくなり、これから私の集落はどのようにっていくのかという不安を現に抱えています。</p> <p>少子高齢化、人口減少が進む中で、この問題に対応することをしていかなければならないと思いますが、この事業により、自分の地域を自分達で作っていくという方向性を出されたことは意味のあることだと思います。ただ、現実の問題として、先ほど申したとおり、少子高齢化により地域の担い手が減少しており、地域づくり活動センターがより良い活動をするためには、これから必要な人材を育成していかなければならないと思います。</p> <p>現在、私たちは、様々なきめ細かい行政サービスを受けており、災害時だけでなく、日頃の生活の中で行政サービスに期待することが常であります。説明の中で市の財政状況や、職員数のことがありましたが、これから今までと同様のきめ</p>

<p>管家市長</p> <p>宇都宮部長</p>	<p>細かな行政サービスを将来にわたって期待することは難しいと思います。そこで自分たちが自分たちの手で、地域づくりに取り組まなければならないと思いますが、そのためには人材育成ということが大事になると思います。</p> <p>教育委員会においては、小学校、中学校を所管しており、県立学校も市内にはあります。小学校から高校までにおいて、直接的あるいは間接的に地域づくりを支えていく人材を育成していくことが大事だと思います。</p> <p>小学生の頃から地域活動にできるだけ参加し、地域とはどういうものなのか、地域の人達がどういう活動を行っているのか、ということを見聞きしたりして、地域の生活が、自分に近いものとして受け止められるようにしていくことが必要かと思います。</p> <p>高校では、将来の進路が非常に大事な問題であり、世界の舞台で活躍することも素晴らしいことではありますが、やはりこれだけ多くの課題を抱えた地方をどう支えていくかを考え、地域づくりに尽力するということが非常に意味のある生き方であるということ、これまで以上に指導していかなければいけないと思います。</p> <p>地域づくり活動センターの中心となり活躍をされる、地域任用職員や一般行政職員などの役割を担える人材を、学校で育てていくことが大事であり、また、西予市にいたなくても西予市を応援してくれる人材を広くつくるといった、広い範囲で、地域づくりに協力する体制も必要ではないかと思います。そのようにしないと、これだけの困難な状況の中で、地域づくりを行うことが難しくなるのではないかと思います。</p> <p>今回の提案を聞かせていただき、教育委員会としても、ふるさと教育といった、ふるさとを支える人材の育成について、今までやってきたことを見直し、足りない部分については、さらに力を入れていかなければならないということを強く感じています。</p> <p>ふるさと教育について、教育委員会事務局からの意見をお願いします。</p> <p>小学校、中学校においては、総合的な学習の時間等をはじめとして、郷土愛が育つような教育活動を進めていきたいと思っています。また、そういうことが、地域に帰ってきて、</p>
--------------------------	--

<p>管家市長</p> <p>一井課長</p>	<p>地域の中で活躍できる人材に繋がると考えており、努力していきたいと思っております。</p> <p>高校との関係について、まちづくり推進課からの説明をお願いします。</p> <p>高校生における教育の一つとして、来年度から公営塾という取り組みを新たに行っていきます。市内3つの高校と連携し、学力以外のコミュニケーション力や企画力といった部分の、社会人として今後必要となる能力について、地域課題をテーマとして学習していく活動を来年4月から展開します。それにより地域を愛する心を育み、一時的に市外に出ることもあるかと思いますが、将来Uターンをして西予市に帰ってきてもらい、地域で活躍をしてもらえる人材を育成することが狙いであります。</p> <p>また、米博物館内に地域協働センター南予という機関ができました。この中には愛媛大学に入っただき、小学校、中学校、高校と大学とが、地域課題を考えながら、地域振興に向けて連携していきたいと思っております。</p> <p>市外の人材の活用については、観光などで訪れるだけでなく、何らかの形で応援したいという方々を含む関係人口という言葉がありますが、例えば、城川町高川地区においては、大学のフィールドワークで地域に入っていた地縁もなく地元出身でもない学生が、大学卒業後も地域に応援に来たいと、毎年大学OBとして地域の中で活躍をされています。そのような取り組みも今後必要になるのではないかと思います。</p>
<p>酒井委員</p>	<p>平成23年に地域づくり組織への交付金制度が始まり、私の地域でも、かりとりもさくの会という組織ができ、色んな活動をしています。これまでの、地域の区長を中心とした組織で慣習的な行事をこなす活動から、課題解決のための活動への移行が芽生え始めたと思っています。その中で、今回の公民館を地域づくり活動センターとする案が出た時に、組織としてすっきりした方向で進めるのではないかと思います。</p> <p>人は減る一方なのに、地域にはたくさんの団体、組織があります。一人何役もこなしている方もおられ、今まではどうしても、そういうものを壊すことができませんでしたが、今回これを良い機会として、見直しもできるのではないかと思います。</p>

	<p>います。</p> <p>また、今、都会に行った際に、どこの出身かを問われた時、「西予です」とか、「明浜です」、と言ってもあまり分かってもらえません。</p> <p>以前参加した講演会で、伊予市双海町では、地域活動によって、沈む夕日が日本一きれいなところということが、都会の方でも認知されるようになったと聴きました。やはり、都会に出ても、自分の出身はここですと、胸を張って言えるような目玉になる活動などができるように、地域は努力していかなければならないと思います。</p>
<p>管家市長</p>	<p>市としても、目玉となるようなものをつくっていくよう努力していきたいと思います。</p>
<p>樋口委員</p>	<p>三瓶町には、分館制度というものがありますが、市政懇談会でこの件の説明をした際の住民の方の意見をお伺いしたいです。</p>
<p>管家市長</p>	<p>分館は存続しておいてほしい、という意見が多くありました。これまでは分館の維持管理費の9割を市が負担しており、その維持管理費を地域で負担するとなった場合についての意見や、三瓶町の分館は公民館のような立派な施設があり、建設時には地域からも相当なお金を出されていると思われ、そのことを含めて後の運営は市が行うべきという意見、分館組織そのものは良いものという意見など、分館については考えてほしいとの多くの意見がありました。中には、地域づくり活動センター化に賛同いただく意見も少数ですがありました。</p>
<p>樋口委員</p>	<p>現在の地域づくり交付金事業で、3月に蔵貫地区において、ふるさとさいこう運動会という行事が開催されました。天候が悪かったにも関わらず、三島地区全部の人達が集まったと思うくらい賑やかでした。今年度も第2回が開催される予定で、そういう意味ではありがたいと思っており、地域づくり活動センター化を進めていただければと思っています。</p>
<p>松川教育長</p>	<p>三瓶町内での市政懇談会では、小規模多機能自治活動拠点整備事業と、分館についての説明を行ってきましたが、一度の説明で理解できるものではない上、この説明が地域内のどこまで周知されているか、教育委員会としても心配をしています。次の取り組みとしては、10月31日に、三瓶町内の3つ</p>

	<p>の公民館の館長と、19分館の分館長に集まっていただき、再度、この制度の説明とお願いをする予定であります。その中で、お願いする内容の一つとして、市としての考え方について理解をしていただくよりも、まずは事業内容について周知を図るという意味合いで、19分館すべてに教育委員会が出向いていき、この内容を改めて説明させていただくことをお願いすることになっています。</p> <p>19分館での説明会は、年内に終える予定としています。その説明会で色々なご意見を聞いて、来年1月に立ち上がる予定である市民検討委員会につないでいきたいと考えています。</p>
<p>管家市長</p>	<p>そういう方向で今後、教育委員会を中心に進めていただく予定となっております。</p> <p>その他、この件についてご意見ありませんでしょうか。</p>
<p>全構成員 管家市長</p>	<p>(特になし)</p> <p>続きまして、樋口委員から、地震・津波発生時のスクールバス運行路の避難路確保についてのご意見をいただいておりますので、ご説明をお願いします。</p>
<p>樋口委員</p>	<p>まず、前回のこの会議でお願いいたしました各学校の空調設備の設置について、前向きに進んでいることに感謝申し上げます。</p> <p>さて、今回提案したスクールバス運行路の避難路確保についてですが、昨年7月豪雨の時に国道378号線で土砂崩れが発生し、スクールバスが通行出来なくなりました。これをきっかけに改めてスクールバスが運行する道路を見ました。</p> <p>スクールバスの安全な運行には色々な要素がありますが、運行中に災害が発生した場合、特に予測の難しい地震発生時には、運転手一人で子供たちを安全な場所まで誘導する必要があるのではないかと、三瓶小学校スクールバスの運転手から話がありました。今後、予測されている南海トラフ巨大地震で予想されている津波の高さは5～10mとなっています。三瓶・明浜地区は津波の影響を受ける可能性があり、その資料を作ってみました。明浜地区から説明しますと、スクールバスはすべて海岸沿いを走っており、海面から10m以上のところに道路がある場所は特に問題はありますが、海面から</p>

	<p>2～3mのところの道路では避難が必要かと思います。資料の赤印で示した箇所に避難路として利用できる階段があり、そこから高台に移動できるようになっていますが、資料の写真のとおり、この避難路のところには木々が生い茂っており、スムーズな避難ができないようになっています。</p> <p>次に三瓶地区では、スクールバスの運行区間のほとんどが海面から近いところを走っています。特に有網代と福島間の道路は道幅が狭く、災害発生時には避難が大変と思う場所があります。また、三瓶地区の避難路として利用できる箇所においても、木々が生い茂っており、スムーズな避難が難しいと思われます。</p> <p>以上のような現状であり、関係機関と連携し、スクールバスの運行区間について、津波に対応できる安全な避難路の確保をお願いしたいです。</p>
松川教育長	<p>海岸沿いでは、スクールバスに限らず、一般車両を含めて、災害発生時には道路上に孤立するような事態も想定されます。う回路もないという状況もあるため、是非とも関係機関と連携を取っていただき、事業展開をお願いしたいと思います。</p>
管家市長	<p>階段部分については、県の管理となると思われるため、早くできると思うが、民地の放置された場所になると、行政だけでなく、地域の交通安全協会やPTAなどの団体を含めた中で連携ができればと思いますが、教育委員会事務局からの意見ををお願いします。</p>
垣内課長	<p>現在、西予土木事務所からは、対応可能場所については対応できるとの意見はいただいておりますが、境界線の確認が必要になると思います。また、民地については、地域の自主防災の活動や公民館事業の中で、このような状況のことを地域の方々と話をして、公民館事業として地域を巻き込んで進めていけるのかどうかといったことが課題であると思います。</p>
管家市長	<p>地域をうまく巻き込んで進めていけるように取り組んで下さい。</p>
全構成員 管家市長	<p>その他、この件についてご意見ありませんでしょうか。 (特になし) その他につきまして、委員の皆様からご意見ありませんで</p>

<p>平岡委員</p>	<p>しょうか。</p> <p>先ほど、まちづくり推進課から、市内3つの高校を巻き込んだ形での地域づくりの推進という話がありましたが、来年4月から三瓶高校が宇和高校の分校になることが10月に決定されました。</p> <p>市内3つの高校を巻き込んで地域づくりを推進していく観点から、来年度以降の三瓶分校が今後も存続していくことが求められると思います。地域や小学校、中学校を含め、力を合わせて来年度以降の宇和高校三瓶分校の存続を図らなければいけないと考えております。</p>
<p>管家市長</p>	<p>今回、まず三瓶高校から、先ほど説明した公営塾の取り組みを行うこととなりました。近隣では、三崎高校が公営塾を行っていますが、三崎高校と同じような形でスタッフを集めることとしております。指導者は、地域おこし協力隊として募集をし、国からの支援だけで足りない部分は、市から支出することとしております。</p> <p>また、3つの高校での公営塾を実施するにあたり、各校の同窓生の方々へふるさと納税への協力をお願いしたところがあります。</p> <p>現在、市内の高校で生徒の全国募集をしているのが、三瓶高校と野村高校の2つの高校であります。ゆくゆくは、全国及び県内外から学校へ来ていただくために、寄宿舎の整備のようなことも学校の方では考えられています。来年度はそこまでの段階ではありませんが、そのようなことも含めて、生徒が、ふるさとを材料にして、地域の良さを分かってくることが、将来地元に関心を持ち、戻ってきていただく近道ではないかということで、公営塾を行うこととなりました。</p> <p>三瓶町地域においては、八幡浜高校へ行く生徒が多いという現実があります。現在、三瓶高校では、かんなフラワーや須崎のジオガイド、三瓶文楽などで高校と地域が連携した活動を行っております。そのような活動を含め、魅力をつくっていけるように、市として応援していきたいと思っております。</p> <p>その他につきまして、委員の皆様からご意見ありませんでしょうか。</p>
<p>全構成員 管家市長</p>	<p>(特になし)</p> <p>事務局から何かありませんでしょうか。</p>

<p>事務局 管家市長</p>	<p>(特になし)</p> <p>それでは、これで協議の場を閉じたいと思います。今日の協議内容につきまして、皆さんのご意見を活かしながら、前に向けて進めていきたいと思います。</p> <p>今後ともよろしく願いいたします。皆様ご協力ありがとうございました。</p>
<p>垣内課長</p>	<p>以上をもちまして、令和元年度第1回西予市総合教育会議を閉会します。</p> <p>本日は、貴重な時間をいただき、誠にありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">(午後4時30分閉会)</p>